市政懇談会を開催しました

〈問合せ先〉
企画課秘書広報係
（河内庁舎2階）☎22-2

昨年9月29日～10月15日の期間で、市内6地区（稲生沢、下田、朝日、稲梓、浜崎、白浜）を会場に、市政懇談会を開催しました。

会場でいただいたご意見や質問等に対し、当日お答えした内容も含め、まとめています。詳細は市ホームページにて公表しておりますが、それらの一部について、主な内容をご紹介いたします。

10.07　稲梓地区
@基幹集落センター

子育て・教育

Q 図書館・中央公民館の再整備の進捗状況について

A 市内の公共施設の規模や人口減少に伴う利用者数の減少等を考慮し、公民館と図書館機能を併せ持つ施設の運営が最適ではないかと考えている。ワークショップ等での意見も踏まえ、検討していきたい。

Q 下田保育所の跡地活用について、クーリングシェルター的機能を持つ、子どもが涼しく遊べる場所としてはどうか？

A 現在、こども園と保育所の合併を先に進めている。跡地の活用については、その後の検討課題としていきたい。

Q 高校生通学費補助の検討状況について

A 市民意識調査を実施し、市HPで公開している。7割が賛成であるが、反対や条件付き賛成の方もいた。そういった意見への配慮も必要と考えており、現在、制度設計に向けた調整を行っている。

Q 終戦80年を迎え、戦争関連史跡等を整備し、子どもたちへしっかりと伝えていくべき。

A 子どもたちが戦争を学ぶ機会の創出を検討していきたい。

Q 国際交流・教育について、具体的な目標や英語教育プログラムについて

A 小中学校でALT（外国語指導助手）による授業や大学連携先の玉川大学、上智大学の学生との交流を行っている。また、黒船祭において米海軍水兵との交流も継続している。テストの点数を取ることよりも、英語に興味を持ち、親しむことを優先している。

危機管理

Q 攻めの防災について

A 防災対策は、発災後の対応を検討することが多いが、事前に対策することで減災につなげ、迅速な復旧を目指す考え。

Q 事前準備等について、具体的な周知方法は？

A 発災時の情報伝達は、大きな課題。丁寧に進めていくしかない。最終的には一人一人の行動が重要で、避難行動や避難場所・避難所での共助を意識するよう伝えていく。

Q 7月30日の津波警報への対応について、様々な問題点があったと考えるが、それに対する対策は？

A 市民の皆様の協力により迅速な避難行動が見られた一方、駅に滞留した観光客の避難誘導や公共交通機関の運行停止情報の周知に混乱が生じていたと認識している。避難所への観光客の収容は困難なため、基本的には地域外への帰宅を促す方針をとり、バスで修善寺駅まで送迎、宿泊希望者にはホテルへ行くよう手配した。警報発令時の情報伝達については、改善が必要と考えており、現在、伊豆半島広域防災協議会で情報連携や公共交通機関のあり方について議論を始めている。「自助」が原則としつつ、市民への啓発が課題である。また、避難所の居住性能（暑さ・寒さ対策）の改善を今後進める必要があり、今年度調査を開始した。

Q 避難所となる稲梓小学校体育館にトイレが設置されていない。設置を検討してほしい。

A 当面は簡易トイレやトイレカーでの対応が想定されるが、避難所の環境整備について、災害関連死にも直結するため重視していきたい。

Q 観光地としてペット連れの観光客も多く、災害時のペットとの同伴避難など、避難所の受入体制を整備してほしい。

A 避難所の運営については、各地域の自主防災組織が定める運営マニュアルに基づいており、避難所におけるペットの取扱いについても、各組織で考えていただくこととなる。

Q 津波発生時の避難について、田牛・吉佐美地区の二次避難所が遠方の大賀茂小学校に指定されている。朝日小学校や朝日公民館等の公共施設を避難所として活用できないか。

A 田牛・吉佐美地区は、地区内の大部分が津波浸水区域内にあり、避難所の設置が難しい。また、津波浸水等を考慮した各施設の波力や漂流物に対する耐久性を考慮した上で検討する必要があり、現状では指定避難所への避難となる。

10.03　朝日地区
@朝日小学校体育館

都市基盤整備

Q 伊豆縦貫自動車道の工事により、国道414号の交通量が増加し、特に大型車による道路の傷みや騒音が住民生活に影響を与えている。国道414号は災害時の緊急輸送道路でもあるため、整備強化の要望を行ってほしい。

A 現在の河津逆川ICからメディカルセンターまでの約10km区間を、「今後10年以内」の完成を目標に国へ要望活動をしている。国道414号の維持管理については、管理者の県に要望していく。

Q （仮称）下田北IC周辺の整備について、今後の予定は？

A 現在は、整備範囲の検討と地権者の意向確認を進めている。地域の方々の意見を伺い、必要な機能を整備していきたい。

Q 東本郷庁舎跡地利用について、避難タワー機能を有した立体駐車場等としてはどうか？

A 昨年度行ったワークショップでも同様の意見をいただいており、様々な可能性を踏まえながら検討していく。

Q 公共交通機関について、夜間にタクシーが少なく、食事へ出ると帰って来れないと聞く。補助金を出して、夜遅くまで動かすべきではないか。夜のタクシーの状況について、市HPで周知も必要でないか？

10.10　浜崎地区
@浜崎小学校体育館

A 課題解決に向けて、公共交通だけで検討してくのは難しい状況にある。福祉や観光とも掛け合わせ、従来型とは異なる別の概念で考えていきたい。今後、県と連携して事業所のマイクロバスなどの活用調査を実施する予定で、空き時間に利活用できるかどうか、その結果を見て検討を進めていく。重要な課題と認識しているので、今後も関係各所と協議していきたい。

Q 毎年度各地区から提出している修繕や原材料費支給に関する要望について、全体の対応状況を教えてほしい。

A 建設課所管では3～4割程度の対応となっている。今後、要望に対する対応をとりまとめて回答させていただく。

観光・産業・雇用・移住促進

Q ソフト面のインフラとして、観光客向けに多言語対応を強化する必要がある。

A インバウンドの増加などによる様々な需要に対して、対応を検討していきたい。

Q 耕作放棄地を集積し、新規就農者へ提供してはどうか。

A 農地バンク等の制度を積極的に周知するとともに、就農者を増やすため〝稼げる〟農業など研究していきたい。

健康・福祉

Q 下田メディカルセンターについて、県に医師派遣要望をしていると聞いているが、その状況はどうか。

A 下田メディカルセンターは、賀茂地域の二次救急病院となっているが、人口が減少する中で、二次救急の体制維持と医師確保に苦慮している。

10.15　白浜地区
@白浜小学校体育館

その他

Q （仮称）下田未来プロジェクトV」について、各プロジェクトの具体的な取組みは？

A 「グローカルCITYプロジェクト」の取組みの一つとして、子どもたちの未来への投資と考えている。各地域において地域性を育み、黒船祭等を通じて国際性を身につけていただきたい。「協働プロジェクト」として、稲梓地域では「稲梓地域活性化基本計画」に基づき、地域の方々や民間事業者と連携して事業を展開している。「攻めの防災プロジェクト」では、今後（仮称）下田北IC周辺の整備が進む中で、稲梓地域が伊豆半島の防災拠点を繋ぐ結節点になると認識していることから、それを見越した検討も行っていきたい。

Q ふるさと納税の実績は？

A 今年度は4億円台と微減傾向。宿泊券などの返礼品に対応する現地型決済の導入に取り組んでいる。

Q 市の財政について、今後赤字が続く状況にあるのか。対策として人件費を削減しているのか？

A 経費削減に努めているが、近年の物価高騰や人件費の上昇等により歳出が増加傾向。一方、少子高齢化や人口減等の社会構造の変化に伴う税収減等により、歳入は減少している。国が定める財政健全化指標において指摘を受けている状況ではないが、早期の取組みが必要と認識している。人件費の削減は、職員の就労意欲の低下や新規の職員採用等で困難な状況を招く恐れがあることから、「最後の手段」として考えており、現時点では検討する段階ではないと判断している。また、「稼ぐまちへの転換」を図るプロジェクトを推進しており、ふるさと納税の強化や公共施設の利活用の検討、目的税の導入、施設使用料の受益者負担額の検討等を行っていく。

10.02　下田地区
@市民文化会館大会議室

09.29　稲生沢地区
@稲生沢小学校体育館

全文は市HPより